
緋寒桜

百合茶

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋寒桜

【Nコード】

N4523B

【作者名】

百合茶

【あらすじ】

春が来たら君はこの学校を出る。そしてこの島を出る。ただその前に：

君にさくらが咲きますように：
僕の想いが届きますように：

放課後、僕は駐輪場から自転車を引き連れて、君と歩いている。
枝の細い裸の木々たちが見るからに寒そうだ。

君をちらりと見れば、まだ『世界史400!』を開いている。君に合わせてだんだん歩く速さを遅くしていたら、ついに止まってしまった。

世界史なら、と淡い期待と小さな自信を持って、君の暗記本を覗いていたら、目と目が合った。「あっ！ごめんね。」

慌てて本を閉じ、歩き出そうとする君。

「待って。」

そんな君の肩を引き留めて、僕らは寒空と木枯らしの中に立っていた。

「ねえ、拓巳はいいの？」

数秒の間があって、君はまたあの話を持ち出した。

「卒業したら、遠距離になっちゃうかも知れないんだよ？」

そう、君は春が来たらこの学校を出る。そしてこの島を出る。

「北陽大だっけ？」

僕は隣の学校名を挙げるように、できるだけ自然に言ったつもりだったけど、どうしても雪国を思い浮かべてしまう。

「うん。：受かればね。落ちたら、県内にするから：」

「そっ：」

そんな事言うなよ、と言おうとした僕と、君の声が重なる。また言葉を繋ぎ合わせるより早く、君の方からその続きを口にした。

「：それに、浪人したら塾で会えるじゃん。」

君の顔が、くしゃっと崩れたのは泣いているのに無理に笑って見せたから。僕はたまらず、自転車から手を離して君をぎゅっと抱き締めた。

『だから、別れよう。』

君の唇がそう動いたけど、そんな言葉は言わせない。遮るように自転車が音をたてて倒れ、僕は君にキスをした。

別れのキスなんて、思ふなよ。

そんな遠回しの台詞より、僕は素直に応援したい。

「好きだよ。どこに行ってもずっと好きだよ。だから、北陽に行けよ。」

そして心の中で呟く。

寂しくなったら僕がまた後輩になるよ、と。

僕は願う。君の桜が咲きますように。たとえ離れたとしても、僕の想いは、ずっと届きますように。

見上げれば裸の木々たちが細い枝を風に揺らしている。その中に、緋寒桜のつぼみはもう綻び始めていた。

(後書き)

ヒカンザクラ
緋寒桜

沖縄ではセンター試験が始まる頃に咲き始め、2月上旬は花盛りとなります。

全国の受験生に桜が咲きますように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4523b/>

緋寒桜

2010年12月2日09時14分発行